

コタヌキモ

Utricularia intermedia Hayne

タヌキモ科
Lentibulariaceae

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 掲載なし

選定理由 本県が分布の南限地。生育環境が乾燥化し、生育状態の悪化した所が生じて生育地が狭くなり、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 北海道 本州 九州(大分)
朝鮮半島 千島 北半球の温帯

生育環境 低山地の湿原水湿地。

現 状 生育する湿原は極めて希。近年、湿原が乾燥化し、ごく一部の水湿地に生育している。

備 考 北方寒冷地要素の植物。隔離分布し、当該生育地が分布南限域となっている。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 瀬戸内海]

タヌキモ

Utricularia vulgaris L.

タヌキモ科
Lentibulariaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 II

選定理由 県内では、各地の池沼に生育する。池沼開発や流入する水質の悪化により、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・鹿児島) 沖縄
樺太 南千島

生育環境 低地や丘陵地の池沼。

現 状 池沼開発や水質汚染により、生育状態の衰退した所がある。

ナガバジュズネノキ

Damnacanthus indicus Gaertn. fil.
var. *giganteus* Makino

アカネ科
Rubiaceae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も極めて少ない。森林伐採や植生遷移の進行による生育環境の悪化で、絶滅の危険性は高い。

県内分布 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域

分布域 本州(愛知県以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地の溪谷沿い林内。

現 状 陰湿な溪谷辺林内の極めて狭い範囲に生育し、森林伐採されて消滅した生育地がある。

備 考 ニセナガバジュズネノキ (var. *pseudogiganteus*) を含む。